

2013年3月期 第1四半期 決算カンファレンスコール

(2012年8月1日実施)

取締役 執行役員常務 経理経管本部長 青木昭一 スピーチ

<P.1 : 2013年3月期第1四半期 決算概要 (前年同期比) >

1ページには、前年同期と比較した、当期第1四半期の決算概要を示しております。

当期第1四半期は、前期第2四半期以降に買収した子会社の売上貢献はあったものの、円高の進行や、通信機器関連事業およびデジタルコンシューマ機器向け部品の売上が減少したことにより、前年同期に比べ、2.5%の減収となりました。また、営業利益は、減収の影響に加え、米国子会社のAVX Corporationが、米国マサチューセッツ州ニューベッドフォード湾の環境汚染浄化費用として、213億円を計上したことにより、20億円の損失となりました。

資料の下段にありますとおり、当期第1四半期の為替レートは、米ドルは前年同期の82円から2円円高の80円、ユーロは117円から14円円高の103円となりました。この円高により、売上高に対して約90億円、税引前四半期純利益に対しては約30億円のマイナスの影響がありました。

続きまして、事業セグメント別の状況についてご説明します。

<P.2 : 2013年3月期第1四半期 事業セグメント別売上高 (前年同期比) >

<P.3 : 2013年3月期第1四半期 事業セグメント別事業利益 (前年同期比) >

2ページに売上高を、3ページに事業利益を、それぞれ前年同期と比較して示しております。

当期第1四半期は、部品事業は増収となったものの、AVX Corporationが環境汚染浄

化費用を計上したことにより、事業損失となりました。また、機器事業は減収減益となりました。

<P. 4 : 2013年3月期第1四半期 決算要約（前年同期比）①>

4 ページに、前年同期と比較した決算の要約を示しています。

まず部品事業ですが、4点あります。

1点目は、新規子会社の貢献による増収です。京セラユニメルコが前期第2四半期より、京セラディスプレイが前期第4四半期より連結子会社に加わったことが、売上高に寄与しております。

2点目は、デジタルコンシューマ機器向けの部品需要の減少です。当期第1四半期の部品需要は緩やかな回復基調で推移したものの、前年同期の水準には至りませんでした。

3点目は、ソーラーエネルギー事業の収益の減少です。補助金の減額により欧州市場が縮小したことに加え、大幅な価格下落の影響を受けたことにより、同事業の収益が減少しました。

4点目は一時費用の計上です。現在、AVX Corporationは、ニューベッドフォード湾の環境汚染浄化に関して、米国環境保護局および他の行政機関と調停を行っています。AVX Corporationは、本件の潜在的債務の見積もりを3億6,600万ドルまで増加させたことにより、当期第1四半期に追加費用として、2億6,600万ドル、円換算で213億円を計上しました。

続きまして、機器事業についてご説明いたします。

<P. 5 : 2013年3月期第1四半期 決算要約（前年同期比）②>

まず、通信機器関連事業ですが、前期に海外向けの投入モデルの見直しを進めた結果、販売台数が減少し、前年同期に比べ減収となりました。事業利益は、棚卸資産の評価

損、約10億円を計上したことにより、2億円の損失となったものの、構造改革の効果により、前年同期に比べ損失は縮小しました。

また、情報機器関連事業については、新製品の拡販に努めた結果、販売台数は、欧米市場で複合機を中心に増加したものの、ユーロ安の影響により、収益は減少しました。

< P. 6 : 2013年3月期第1四半期 決算概要 (前期第4四半期比) >

6ページの表は、当期第1四半期の業績と前期第4四半期との比較です。

情報機器関連事業の売上減に加え、AVX Corporationによる環境汚染浄化費用の計上により、前期第4四半期比でも、減収減益となりました。

次の7ページに事業セグメント別の売上高を、8ページに事業利益を記載していますのでご覧下さい。

< P. 7 : 2013年3月期第1四半期 事業セグメント別売上高 (前期第4四半期比) >

< P. 8 : 2013年3月期第1四半期 事業セグメント別事業利益 (前期第4四半期比) >

部品事業は増収となったものの、電子デバイス関連事業において、一時費用を計上したことにより、事業損失となりました。また、機器事業は減収減益となりました。

< P. 9 : 2013年3月期第1四半期 決算要約 (前期第4四半期比) >

前期第4四半期との比較についての要約を9ページに記載しています。

要約の1点目は、デジタルコンシューマ機器向けの部品需要の増加です。客先での在庫調整が終息に向かい、当期第1四半期の部品需要は緩やかに増加傾向となりました。

2点目は、情報機器関連事業の収益の減少です。販売促進策の効果により、売上が大きく伸びた前期第4四半期と比較すると、欧州市場を中心に販売台数が減少しました。

3点目は、先程もご説明しました、AVX Corporationにおける一時費用の計上です。

以上が当期第1四半期の業績概要です。

続きまして、今期通期の業績予想についてご説明します。

<P.10：2013年3月期 通期業績予想>

当期第1四半期の実績および第2四半期以降の見通しを踏まえ、当社は4月に公表した通期業績予想を一部修正いたしました。売上高は、第2四半期以降、事業環境の改善が見込まれることから、4月予想から変更なく、1兆3,700億円を目指してまいります。一方、利益につきましては、AVX Corporationにおける環境汚染浄化費用の計上を踏まえ、この影響額を4月予想に反映させ、修正しました。新たな業績予想としては、営業利益は1,187億円、税引前当期純利益は1,299億円、当期純利益は864億円を見込んでおります。

また、為替レートについても今回、修正しています。第2四半期以降の見通しを、ドルは78円、ユーロは95円へ変更しました。この結果、表の下段にありますとおり、通期予想レートは、ドルは79円、ユーロは97円となり、前期に比べ、売上高に対して約220億円、税引前利益に対して約120億円、それぞれマイナスの要因となります。

事業セグメント別の予想については、お手元の資料の11ページおよび12ページに記載しております。

<P.11：2013年3月期 事業セグメント別売上高予想>

<P.12：2013年3月期 事業セグメント別事業利益予想>

事業セグメント別の予想については、AVX Corporationにおける環境汚染浄化費用の計上により、12ページの中ほどにあります、電子デバイス関連事業の事業利益予想を変更しておりますが、そのほかの事業セグメントについては、修正はありません。最後に、この業績予想の達成に向けた第2四半期以降の取組みについてご説明いたします。

< P. 13 : 2013年3月期 第2四半期以降の主な取組み >

まず、1点目は、デジタルコンシューマ機器向け部品の売上増です。第2四半期以降、スマートフォンやタブレットPC向けの部品需要が拡大する見通しです。当社は、需要に見合った増産体制を構築し、事業機会を確実に捉え、部品事業の売上増を図ってまいります。

2点目は、ソーラーエネルギー事業の売上拡大です。国内での再生可能エネルギーの固定価格買取制度が7月より開始され、メガソーラーをはじめとした産業用途向けの太陽電池の需要が増加傾向にあります。

3点目は、通信機器関連事業の売上拡大です。国内外向けの製品ラインナップを拡充させ、売上増に努めてまいります。第1四半期には、世界初となるパネル全体の振動により音を伝える「スマートソニックレシーバー」を搭載した端末を国内向けに投入しました。第2四半期以降も引き続き、市場のニーズに合った新製品投入を図り、売上増を目指してまいります。

これらの取組みを確実に遂行することにより、今期業績予想の達成を目指してまいります。

以 上